

2004～2005年のワシ類の飛来状況 速報



オオワシ成鳥(2004年2月22日
白糠の庶路にて撮影)

エゾシカの主要な越冬地は主に釧路管内の内陸部に位置し、阿寒町、白糠町では毎年多数のエゾシカが捕獲されています。エゾシカの残滓とワシの鉛中毒との関連から道東地区野生生物室では1998年に両町に定期調査コースを設定し、冬期間、継続的にワシ類の飛来状況の調査を行っています。



阿寒の調査ルートです。
釧路の街中から調査は
始まります！！

今年度(2004年10月～
2005年4月予定)も阿寒
町阿寒川流域、白糠町庶
路川流域及び茶路川流域
で調査を行っています。

白糠の調査ルートです。おも
わず車がハマってしまいそ
うな山道をくまなく探します。



阿寒におけるワシ類の観察羽数と種構成

下のグラフは阿寒川流域におけるワシ観察羽数の過去4年間のデータです。内陸部に来遊するワシの数は3月にピークとなり、4月には減少することがわかりました。また、内陸部に飛来するオオワシ及びオジロワシの種構成は、オオワシが約60～90%を占めています。これは道東全域に来遊するワシ類の構成比を反映したものだと考えられます。

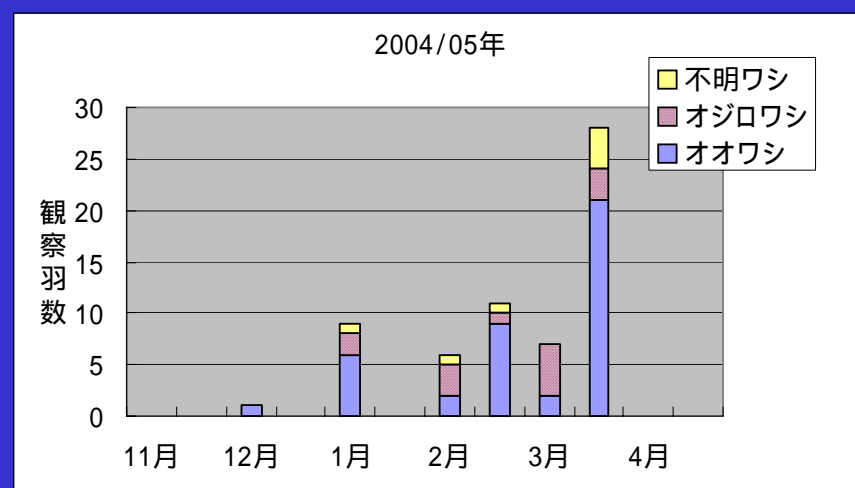
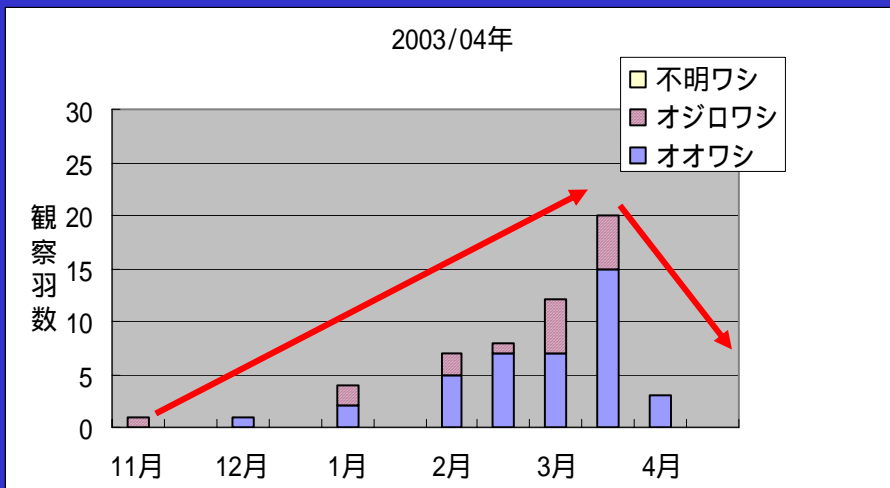
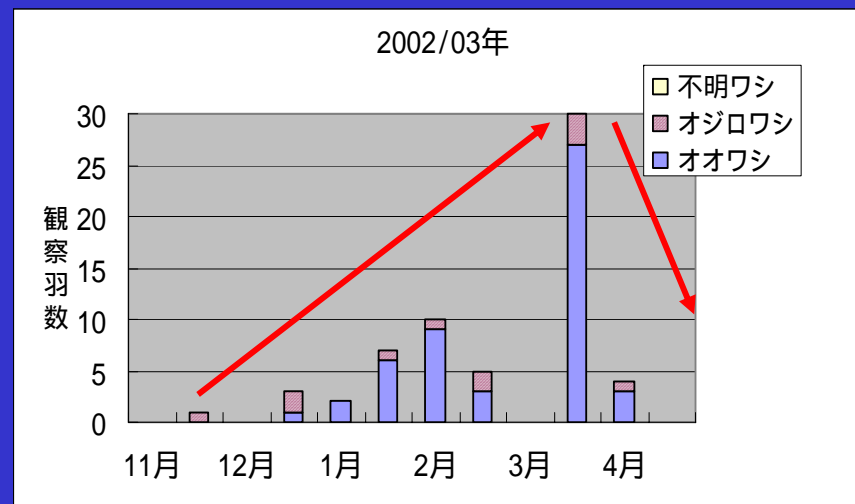
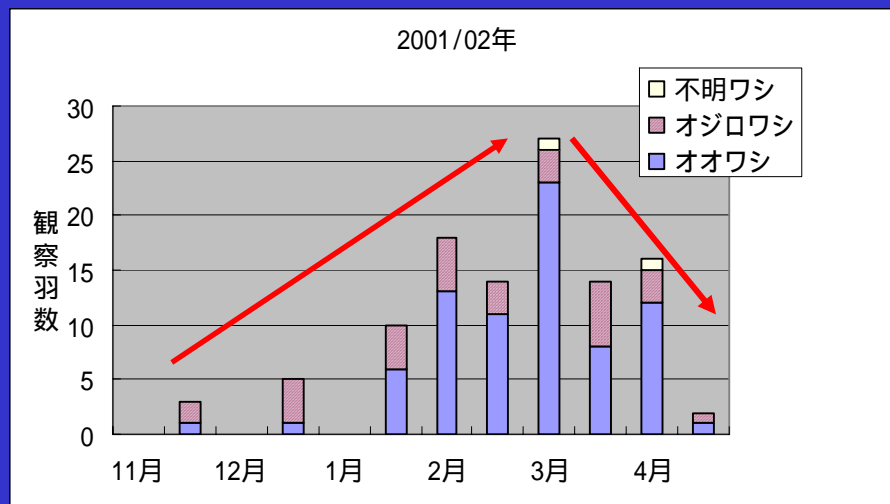


図3. 阿寒川流域におけるワシ類の観察羽数の推移

白糖におけるワシ類の 観察羽数の推移

下のグラフは白糖町庶路川流域におけるワシ類の観察羽数の推移です。左のグラフは昨年度(2003~2004年にかけて)のデータで、右のグラフは今現在おこなっているセンサスの最新データです。今年度、2月の調査では既に昨年の倍近くものワシを確認しています。今後どのような傾向がみられるのか、引き続き調査を行っていききたいと思います。



2005年2月9日白糖で撮影。調査コースの道路脇で真近にオオワシを見る事ができました。真っ青な空に、白、黒、黄色のコントラストがとても鮮やかでした。

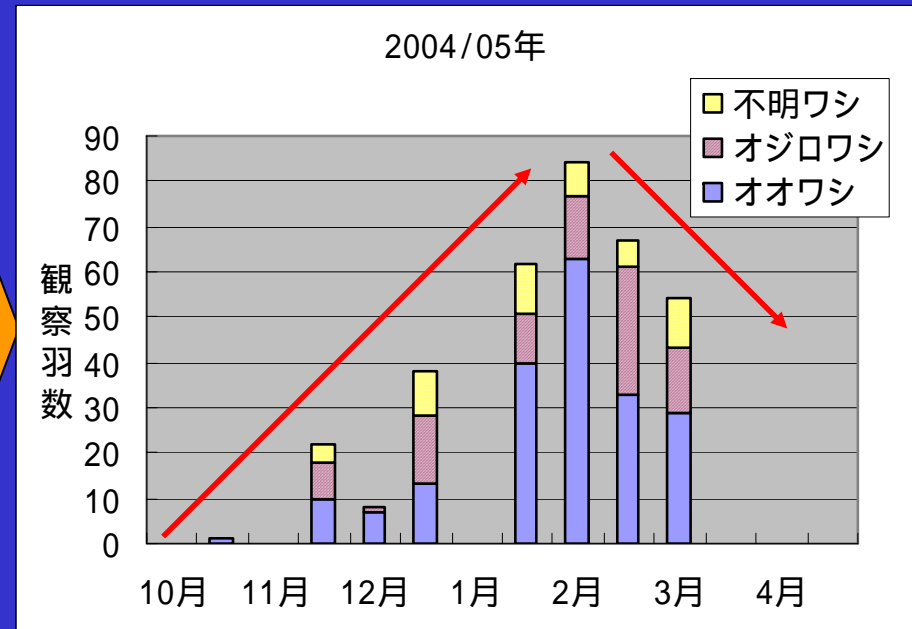
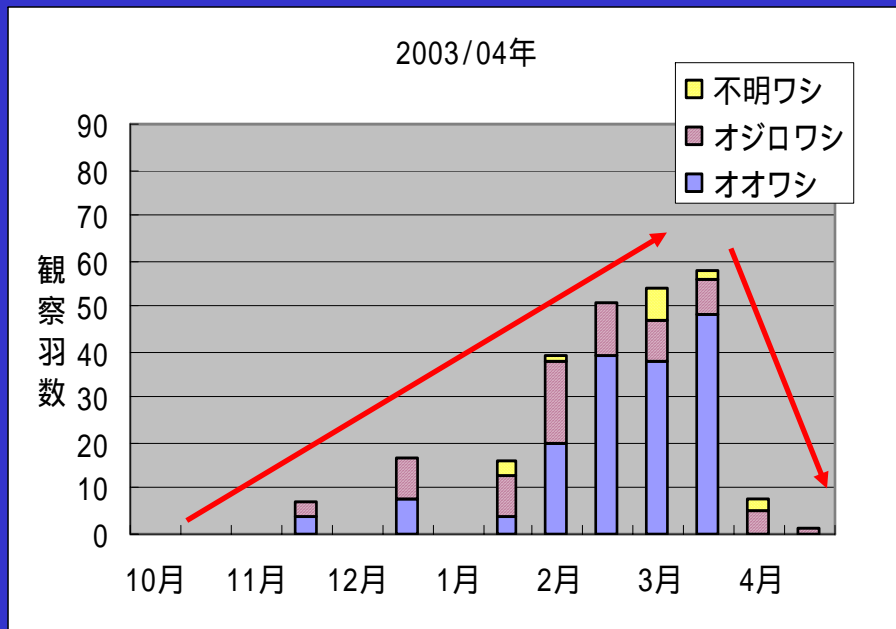
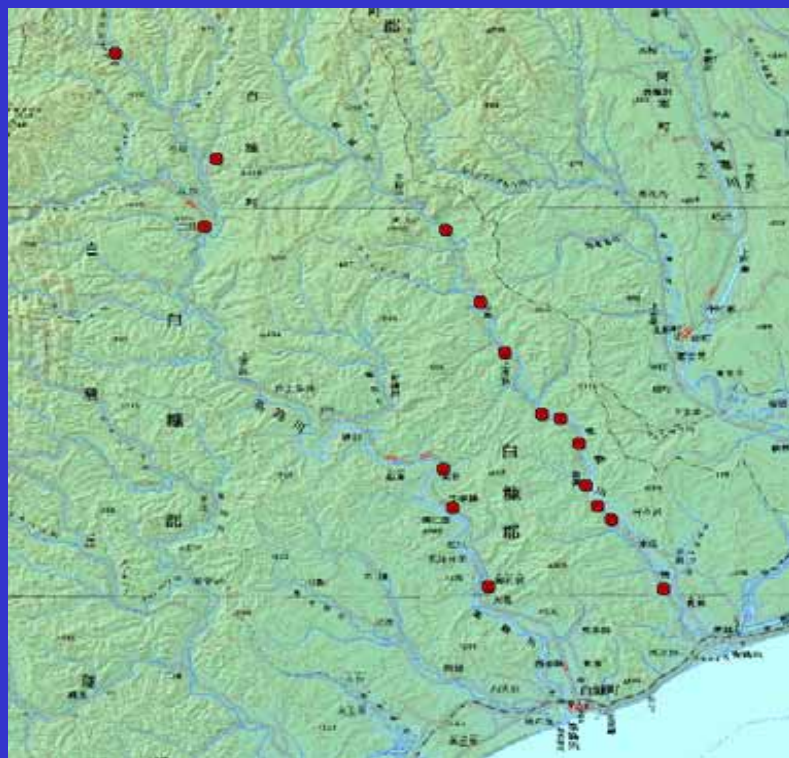


図4. 庶路川流域におけるワシ類の観察羽数の推移

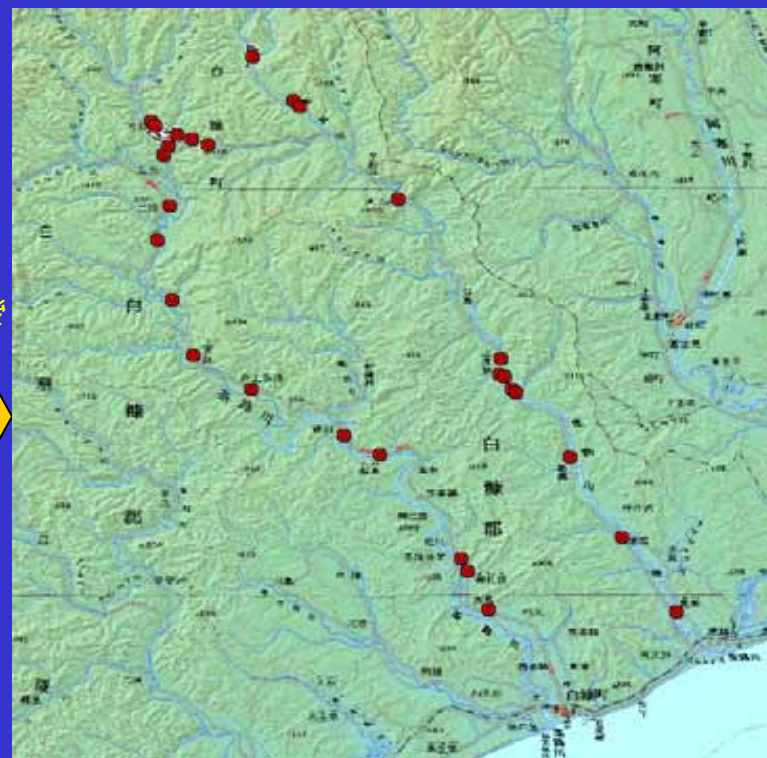
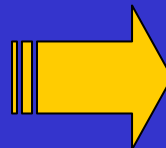
飛来場所は？

庶路川流域と茶路川流域の事例：2004年11月調査時には庶路川の中・下流部に比較的多く見られました。この時期は河川に遡上した魚類を主に採食しているためだと思います。そして12月になると上流部で多く見られるようになりました。これは山中に増え始めるエゾシカの死体を採食しているためだと考えられています。また茶路川流域にも11月と比べ多くのワシ類が飛来していました。



a) 2004年11月26日

約1ヶ月後



b) 2004年12月22日

図5. 庶路川及び茶路川流域におけるワシ類を発見した地点(図中の赤丸印)

エゾシカとワシ鉛中毒の関係

エゾシカの狩猟活動が自然生態系にどのような影響を及ぼすのか。
ワシの飛来状況と共に調査を進めています。



エゾシカの死体 (2004年2月22日庶路川上流部にて)

ワシの鉛中毒:

シカ猟に鉛弾を使用するハンター シカの死体を放置
ワシが鉛弾の破片が入ったシカの死体を食べる
ワシが鉛中毒になり、死んでしまう……。



この時期のワシにとって貴重な餌資源であるシカ。ワシの多くはシカに依存しているといっても過言ではありません。
(写真は餓死したシカの死体に付いていたオジロワシ亜成鳥)

平成16年度から、ワシ類の鉛中毒死の発生を根絶するために、北海道ではエゾシカ猟に限らず、ヒグマも含めた大型獣捕獲用の鉛ライフル弾及び鉛散弾の使用を禁止しています。

詳細は以下のHPを参照してください。
(<http://www.pref.hokkaido.jp/kseikatu/ks-kskky/sika/lead/lead.htm>)